

## 日韓の音楽授業ネットワークづくりと遠隔授業の実践

齊藤忠彦 芸術教育講座

吉本隆行 芸術教育講座

### はじめに

平成 12 年度より、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 C，研究テーマ：音楽文化の交流を目的とした遠隔授業ネットワークの構築，研究代表者：吉本隆行，課題番号：12680259，）により，音楽科における遠隔授業に関する研究を行なっている。これまでに信州大学教育学部，附属長野中学校，附属松本小学校の各音楽教室にテレビ電話を設置し，国内における遠隔授業の実施を試みた。平成 14 年度は，研究の最終年度として，海外の学校との遠隔授業の機会を探っていた。そのような折，平成 14 年 8 月 21～23 日，「KCME (The Korean Society of Computer Music Education)」(韓国パソコン音楽教育学会)の訪日視察セミナーが開催された<sup>1)</sup>。ソウル教育大学の Jang Ki Beom 教授 (KCME 主宰) が率いる韓国の小・中・高・大学の 17 名の音楽教育関係者が来日した。コンピュータを活用した音楽教育についての視察や日韓の音楽教育に関する情報交換が行われた。情報通信ネットワークを活用した日韓の交流授業の可能性についても検討され，そのときの論議が本研究テーマを設定するきっかけとなった。その後，セミナーを主催した(有)ミュージカル・プラン，(株)ユーリー・ソフトウェアの各社，およびアコール音楽教育研究所のサポートを得て，韓国との遠隔授業が実現する運びとなった。

### 1 日韓の音楽授業ネットワークづくりの基盤

#### (1) 日韓の教育課程の現状

韓国では 1984 年に教育法の一部が改正され，義務教育が 6～15 歳までの 9 年間(初等学校 6 年間，中学校 3 年間)となった。初等学校の教育課程は教育部が告示する「国民学校教育課程」によって定められており，1995 年から学年進行で実施されている第 6 次教育課程によると，教科が「道徳」「国語」「算数」「社会」「理科」「体育」「音楽」「美術」「家庭科」「特別活動」で構成されている。その他，各学校で自由に運用できる「学校裁量時間」が設けられている。1 単位時間は 40 分で，年 34 週の授業を行なう。中学校の必修教科は「国語」「数学」「社会」「理科」「体育」「音楽」「美術」「家庭」「技術・産業」「英語」で構成され，その他に選択教科として「漢文」「コンピュータ」「環境と特別活動」がある。1 単位時間は 45 分で年 34 週の授業を行なう。このように韓国の教育課程は日本と同じ 6・3・3 制の教育システムであり，教科内容や授業時間数も類似している。ソウル市内のある小学校では，「朝の活動」の開始時刻は 8 時 30 分，「1 時間目」が 9 時 10 分から開始され午前中に 4 時間の授業を行なう。昼食をはさんで「5 時間目」は 13 時 10 分に開始，続いて 6 時間目が行なわれる。このように一日の日課表も日本と類似している。遠隔授業を行なうことを想定すると，日韓の時差はないため，日常の授業時間内で無理のない授業実践を行なうことができるだろう。

#### (2) 日韓の音楽教育の現状

韓国の第 6 次音楽科教育課程(小等学校)は，目標を「音楽性を啓発し，創意的表現能力と鑑賞能力を育成し，豊かな情緒を涵養する」と示し，「理解」「表現」「鑑賞」の 3 領域で内容を構成している。日本の小学校学習指導要領〔音楽〕では，目標を「表現および鑑賞の活動を通して，音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに，音楽活動の基礎的な能力を培い，豊かな情操を養う」

とし、「表現」「鑑賞」の2領域で内容を構成している。韓国と日本は、戦後の同時期にアメリカの音楽教育の影響を強く受けており、教育課程の改定を重ねてきた現在でも内容の類似点が多い<sup>2)</sup>。

韓国では国楽(韓国伝統音楽)を以前から授業に取り入れており、1975年には国楽教育研究が発足させ、毎年9月には初・中・高等学校国楽競演大会を開催している<sup>3)</sup>。日本では中学校学習指導要領〔中学校〕の改訂に伴い、3年間の中で一種類以上の和楽器を扱うことと示されるようになったが、韓国の学校における国楽教育から学ぶべき点は多いだろう。本研究による音楽授業ネットワークづくりは、日韓の音楽教育関係者の連携や交流を深め、音楽教育に関する共同研究の可能性を広げることになるだろう。

### (3) 日韓の情報教育の現状

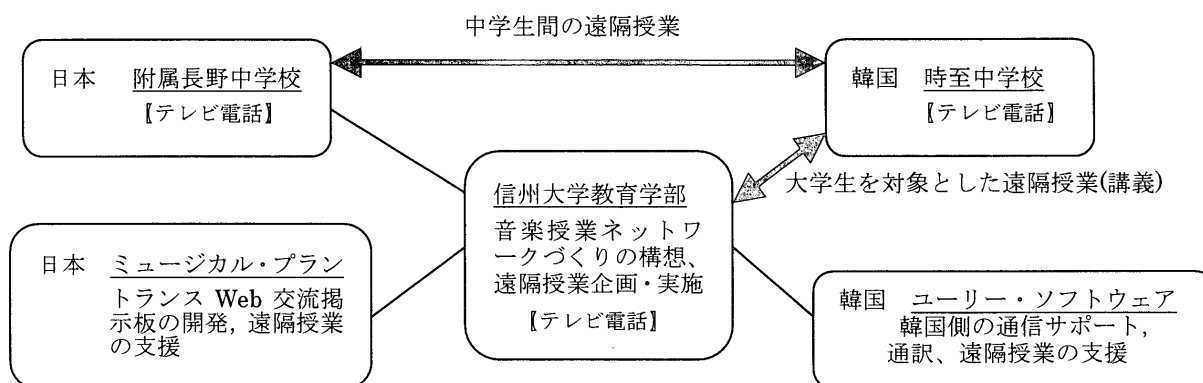
日本では情報化に対応した教育を推進するため、IT戦略本部<sup>4)</sup>が策定した「e-Japan重点計画」<sup>5)</sup>に基づき、「2005年度までに、すべての小中高等学校等が各学級の授業においてコンピュータを活用できる環境を整備する」ことを目標に、教育用コンピュータの整備やインターネットへの接続、教員研修の充実、教育用コンテンツの開発・普及などが実施されている。一方、韓国では、ICT(Information and Communication Technology)を利用した教育が進められており、情報教育を充実させるために具体的な方策として、学校教育におけるコンピュータの普及、ネットワークの普及、モデル校の設置と運営、カリキュラム開発、ソフトウェアの開発などが実施されている。音楽科においてもICTの利用は積極的に進められ、コンピュータを活用した創作学習<sup>6)</sup>やインターネットを使った鑑賞学習<sup>7)</sup>が行われている。日韓ともに情報通信ネットワーク環境が整備されつつあり、日韓における音楽授業ネットワークづくりが可能な時代となった。

## 2 日韓の音楽授業ネットワークづくりの経過

本研究では、日韓の中学校間の音楽授業ネットワークづくりを第一に考えた。日本側は、テレビ電話を設置してある附属長野中学校を対象校とし、韓国側は音楽科で遠隔授業を希望している大邱市の時至(シチ)中学校を対象校とした。

平成14年10月24日(木)、本学部の吉本、齊藤が韓国の時至中学校に訪問し、柳斗桓校長に音楽授業ネットワークづくりに関する正式依頼を行なった。さらに、時至中学校の音楽科主任の羅惠娘教諭および韓国側の通信面のサポートおよび通訳を担当する(株)ユーリー・ソフトウェアのスタッフと音楽授業ネットワークづくりに関する打ち合わせを行なった。遠隔授業の実施日程の調整や授業内容について検討し、平成14年12月中に実施すること、授業内容は、各校の日常の音楽活動を生かし、特別な負担がかからないようにすることなどを確認した。また、遠隔授業の実施前にインターネットの掲示板を活用した日韓の生徒間の個人的な交流を行なうことが望ましいことを確認した。

羅惠娘教諭は、韓国の音楽教育界の中で指導的な立場にあることを知り、音楽授業ネットワークづくりの第二の懸案としていた内容で、羅惠娘氏を外部講師とし、本学部の音楽教育専攻学生を対象とした遠隔授業(講義)についても実現する運びとなった。帰国後、韓国側の意向をもとに附属長野中学校音楽科との調整を進めた。インターネットの掲示板を用いた交流については、日本語とハングルを同時に変換することができるソフトウェアの開発(トランス Web 交流掲示板)を行なっている(有)ミュージカル・プランのサポートを得た。次に示す図は本研究における日韓の音楽授業ネットワークのイメージである。



### 3 日韓の音楽授業ネットワークを利用した遠隔授業の実践

本研究では日韓の音楽授業ネットワークを利用し、「A 日韓の中学生間の音楽科遠隔授業」と「B 大学生を対象とした遠隔授業（講義）」の2つの授業実践を行なった。各実践の内容を以下に記す。

#### A 日韓の中学生間の音楽科遠隔授業

##### (1) 実施校

【日本】 信州大学教育学部附属長野中学校

所在地：長野県長野市南堀 109

テレビ電話：001-81-26-256-9278

【韓国】 時至中学校

所在地：大邱市壽城區新梅路 51 番地

テレビ電話：001-52-53-794-0841

##### (2) 概要

遠隔授業の事前に、トランス Web 交流掲示板を活用して、日韓の生徒間が個人レベルで自己紹介を行なう。遠隔授業では、各国の伝統音楽の紹介および日頃の授業実践の成果を発表したり、相手国の代表的な歌曲を歌ったりする。これらの音楽活動を通して、相手国の生徒に親しみを持ち、両国の音楽文化への関心を高める。

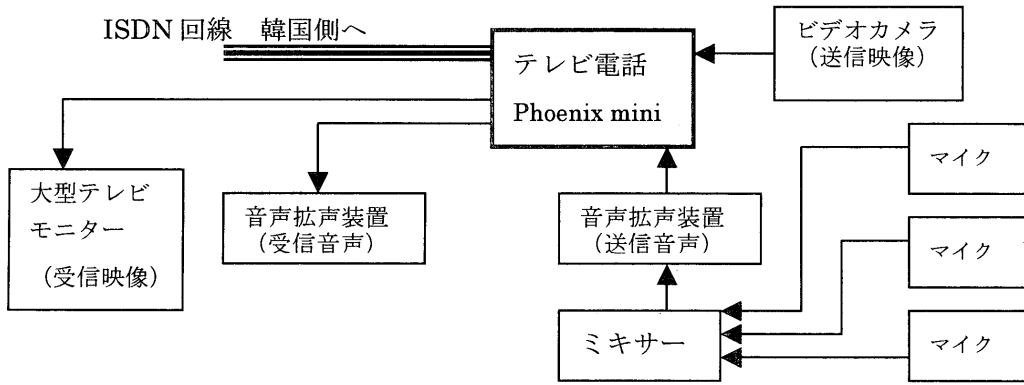
##### (3) 方法

###### ①トランス Web 交流掲示板の活用

トランス Web 交流掲示板は（有）ミュージカル・プランが開発中のソフトウェア<sup>8)</sup>で、日本語で入力した内容がハングルで表示され、ハングルで入力した内容が日本語で表示される掲示板である。文章の作成にあたっては、あらかじめ設定されているキーワードを選択しながら文章を完成させる形式になっている。現段階では自由に文章を作成することはできないが、自己紹介レベルの内容ならば十分に対応することができるソフトウェアである。あらかじめ掲示板を使用する生徒名簿、教師名簿を登録しておく。使用時は、ID 番号とパスワードを入力してログインしてから書き込みができるようになっている。

###### ②テレビ電話の活用

遠隔授業では、通信の安定性の高いテレビ電話を活用した。テレビ電話は NTT のフェニックス・ミニ (Phoenix mini type-s) で、テレビ電話本体に外部のテレビモニター、音声拡声装置、ビデオカメラ等を接続して、教室全体での遠隔授業に対応できるようにした。回線は専用の ISDN<sup>9)</sup> 回線を用いた。音楽科の授業では、教室全体に拡散する音声（歌声やピアノの音など）を集音する必要があるため、マイクの配置にも工夫が必要である。本研究で使用したシステム図を次ページに記す。



(4) 実践記録

①トランス Web 交流掲示板の活用記録

遠隔授業の実施前にトランス Web 交流掲示板を活用して、日韓の各生徒が自己紹介を行なった。掲示板の内容の一部を以下に示す。「自己紹介をしましょう」という教師の問いに対して、日韓の生徒たちが自由に書き込んだ内容である。

●	オミンスク	(ko) 이름은 ohminsuk 입니다. 성격은 밝은편입니다. 좋아하는 탤런트는 leesooyoung 이며, 이유는 얼굴이 예쁘기 때문입니다. 좋아하는 스포츠는 농구 입니다. 좋아하는 스포츠 선수는 kimsngghyun 입니다. (ja) 名前はohminsukです。 性格は明るいです。 好きなタレントはleesooyoungで、理由は顔が可愛いからです。 好きなスポーツはバスケットボールです。 好きなスポーツ選手はkimsngghyunです。 - 2002/12/13 16:27 -	削除
●	ヒグチ	(ko) 이름은 higuchia 입니다. 나는 노래가 좋기 때문에 음악을 좋아합니다. 성격은 밝은편입니다. (ja) 名前はhiguchiaです。 私は、歌が好きなので音楽が好きです。 性格は明るいです。 - 2002/12/13 16:30 -	削除
●	ウムヨンヒュン	(ko) 이름은 EumYongHyun 입니다. 별명은 younggu-art 입니다. 좋아하는 스포츠는 농구 입니다. 혈액형은 B형 입니다. 성격은 쾌활합니다. 악기는 다루기는 어렵지만 좋아합니다. (ja) 名前はEumYongHyunです。 ニックネームはyounggu-artです。 好きなスポーツはバスケットボールです。 血液型はB型です。 性格は陽気です。 楽器は苦手だけど好きです。 - 2002/12/13 16:32 -	削除

②遠隔授業の実践記録

日時 : 平成 14 年 12 月 16 日 (月) 11 : 30 ~ 12 : 30

対象 : 【日本】信州大学教育学部附属長野中学校 1 年生・3 年生 (計 80 名)

授業者 : 臼井学教諭 場所 : 音楽室

【韓国】時至中学校 1 年生 (45 名)

授業者 : 羅惠娘教諭 場所 : 音楽室

時 間	内 容	韓国(時至中学校)	日本(附属長野中学校)	備 考
11:30	(1) あいさつ	「こちらは韓国のシチ中学校です。アンニョンハセヨ！（こんにちは）」 【通訳】	「こちらは日本の附属長野中学校です。こんにちは！（アンニョンハセヨ）」【通訳】	日本から先に挨拶
11:33	(2) 学校紹介	学校長挨拶【通訳】 学校紹介（クラス代表生徒）【通訳】	学校紹介（クラス代表生徒）【通訳】 副校長挨拶【通訳】	日本から先に紹介
11:40	(3) 授業成果の発表 韓国側の発表	発表 ・伝統音楽（サムルノリの楽器紹介と合奏） ・ジングルベル（リコーダーを中心とした合奏） ・コンピュータで作曲した作品を紹介	鑑賞	時至中学校の2年生がサムルノリの演奏に特別参加  ミュージック・プロの楽譜画面が表示される
11:51	感想発表		感想発表（代表1名） 【通訳】	
11:53	日本の発表	鑑賞	発表（15分以内） ・伝統音楽（三味線の紹介と演奏） ・合唱「大地讃頌」（1,3年生） ・合唱「Help」（3年生）	三味線演奏はビデオで紹介
12:05	感想発表	感想発表【通訳】		
12:07	(4) 相手国の歌をうたう 「ふるさと」	「ふるさと」を日本語で発表 「ふるさと」を一緒に歌う	鑑賞  「ふるさと」を一緒に歌う	韓国のピアノ伴奏に合わせる
12:12	「秋の手紙」	鑑賞  「秋の手紙」を一緒に歌う	「秋の手紙」をハングルで発表 「秋の手紙」を一緒に歌う	日本のピアノ伴奏に合わせる
12:16	(5) 全体を通しての感想発表	感想発表【通訳】 「今日は日本の友達と会えて本当にうれしかったです。夜も眠れないほど待ち遠しかったです。練習する時間は短かったけれど、がんばって練習しました。次はテレビ電話ではなく、直接会って話したいです。（日本語で）私たちはアジアの未来です。世界の中心となりましょう。」	感想発表【通訳】 「今回はテレビ電話での交流だったけど、お互いの文化を理解しあうよい機会になりました。皆さんの演奏はとて素晴らしい、世界共通の音楽を楽しめました。今年ワールドカップも共同開催され、お互いが身近な国になったので、これからもこのような交流が続けられたらいいなと思います。」	
12:22	(6) あいさつ	アンニョン（ありがとうございました）	ありがとうございました（アンニョン）	

## (5) 考察

### ○テレビ電話の音声、画像について

授業時間は約 60 分であったが、テレビ電話の音声、画像はともに安定していた。音声に関しては、スピーカーから出力される音声をマイクで再び拾ってしまうことによって生じるハウリングの心配があったが、スピーカーやマイクの配置を工夫し、さらに相手方の音声を継続して出力しているときには、マイクの入力レベルを下げるなどの工夫をすることにより、最小限に抑えることができた。また、教室に拡散している音声を集音できるかという心配もあったが、相手方の合唱や合奏を十分に鑑賞することができた。合同合唱の場面では、通信回線による時間差を心配していたが、予想していた以上にタイミングを合わせることができた。画像に関しては、現在の通信回線速度では十分なものとはいえないが、カメラを不必要に動かしすぎず、アップの画像を多くすることにより、双方の顔の表情を伝えることができた。

#### 【生徒の感想から】

- ・映像はコマ切れのようになってしまっているけれども、そんなのはあまり気にはなりませんでした。
- ・映像や音に差はあるものの、十分わかり相手の笑顔もよく見れて良かったと思う。

### ○授業内容について

授業は、主として「各国の伝統音楽の紹介」、「日頃の授業実践の発表」、「相手国の歌曲をうたう」という 3 つの内容であったが、「相手国の歌曲をうたう」活動が生徒たちにとって最も印象深かったようだ。附属長野中学校はハングルで「秋の手紙」を、時至中学校は日本語で「ふるさと」を歌った。お互いに慣れない言葉と音楽であったが、これらの練習や発表を通して相手国との心と心の距離を縮めることができた。時至中学校の生徒が日本語で 3 番まで歌い上げた「ふるさと」は、附属長野中学校の生徒にとって驚きであり感動的な演奏であった。特にソロで歌った 2 番の生徒に対し、その堂々とした姿に心を打たれ、「僕たちも見習わなくては・・・」という感想を記した生徒がいる。今後の音楽活動への課題意識につながっている。

- ・感動したことは、ハングル語で歌えたということです。暗譜できたので、自信をもって歌えました。
- ・一番印象に残ったのは、シチ中学校の人たちが歌ってくれたうたです。「ふるさと」は男の人しかいないのに、きれいな歌声でした。日本語の発音がしっかりしていて聞き取りやすかった。
- ・一番、印象深かったことは、「ふるさと」の 2 番をソロで歌っていたところです。知らない、しかも他国の人の前で堂々と歌えるのはすごいことだと思いました。
- ・「ふるさと」をソロで歌っているシチ中学校の生徒がいて、とてもすごくて僕たちも見習わなくては・・・と思いました。

「各国の伝統音楽の紹介」では、時至中学校は伝統音楽のサムルノリ<sup>10)</sup>を紹介した。サムルノリで使われるでケンガリ<sup>11)</sup>やチャンゴ<sup>12)</sup>などの四つの打楽器の特徴と音色を紹介し、続いて演奏発表を行なった。中学校学習指導要領（音楽）では、鑑賞の項目に「世界の諸民族の音楽を取り扱う」と示されているが、教科書や CD 等で知識として扱う学習とは異なり、現地から直接に実際の楽器を紹介され、さらに同年齢の中学生の演奏を聴くことができるという恵まれた学習環境となった。日本では指導要領の改訂にともない、中学校では 3 年間の中で和楽器を必ず扱うことになったが、韓国ではサムルノリのような伝統音楽を通常の音楽科の授業でも取り入れており、その学習が定着している様子は附属長野中学校の生徒にとって刺激となったようだ。附属長野中学校は三味線を紹介し、中学校 3 年生の津軽三味線の演奏をビデオ映像で送信した。日本の伝統音楽に対して誇りを感じると同時に、日本の音楽や文化への理解と関心を深める契機になった。

- ・ 韓国の伝統的な楽器が珍しく、見たことのないものだったので、良い勉強になりました。
- ・ 韓国の楽器を紹介してくれたり、演奏してくれたりして、とてもきれいな響きでした。
- ・ 韓国の伝統音楽はノリが良く、明るい音楽で、日本とはちがうおもむきがあると思いました。

「日頃の授業実践の紹介」では、時至中学校は、クリスマスツリーが飾られた温かい雰囲気の中の教室の中で、リコーダーを中心とした楽器を使ってクリスマスソングを演奏した。また、コンピュータを使って作曲したという生徒のオリジナル作品を紹介した。附属長野中学校は、学校で最も大切にしている合唱曲「大地讃頌」と3年生による「Help」を紹介した。異なった分野の紹介ではあったが、相手校の多種多様なしかも素晴らしい活動に触れ、生徒たちは大きな触発を受け、自らの感性を豊かにする貴重な体験となった。

#### ○韓国との交流について

音楽を中心とした授業内容であったが、この1時間の活動を通して、生徒たちは韓国の人たちに親しみを持ち、韓国という国に高い関心を示している。2002年に日韓で共同開催されたワールドカップを機にして、韓国はより身近な国となったといわれているが、生徒たちにとってはテレビを通しての韓国という意識であり、生徒たちにとって親しみのある韓国とはいえなかった。しかし、今回の授業では、以下に記す感想からもわかるように、韓国の人に強い親しみをもっている。遠隔授業で韓国の中学生に実際に出会い、音楽活動を中心とした時間を共有したという経験が、このような成果につながったと考えられる。

- ・ 国は違うけれど、やっぱり、同じことを考えていて、そして同じ中学生ということがわかりました。
- ・ 遠隔授業をとおして日本と韓国が前よりもっと仲良くなったんじゃないかなと思います。
- ・ シチ中学校のみなさんも、とても友好的で気持ちよく受け入れてくれてうれしかったです。僕たちも笑顔で会話できてよかったです。
- ・ 私は「韓国は外国で関係のないところだ」と前が思っていたけど、とても近いところなんだというふうに変えました。関係がなくて、あんなふうに一生涯懸命に歌ってくれるのだろうし、私たちの方も、その一生懸命さを受け止められるのではないかと思います。
- ・ 言葉や住んでいるところは違うけど、国は関係なく、思うことが同じということです。実際は遠くに居るけれど、テレビ電話を通して、韓国の人を身近に感じることができました。こういう授業が時々あれば楽しいと思います。
- ・ 韓国の人が「私たちは明日の未来」と言ってくれたと思いますが、日本と韓国の間には昔の人がとりかえしのつかないようなことをしてしまった歴史があるけれど、今日の私たちの交流で、そんな歴史が白紙に戻ればいいと思います。韓国の方は本当にいい人たちで、今日交流できてよかったです。
- ・ 遠隔授業を通して、世界に向かって前進できたということが、何よりもうれしいことでした。こういう機会をどんどんふやしていけば、世界の心はきっと一つになると思います。私はこのような遠隔授業ができたことをとてもうれしく思います。

#### ○トランス Web 交流掲示板について

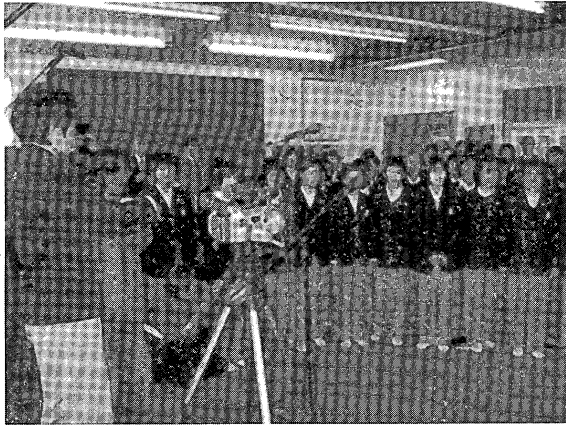
トランス Web 交流掲示板のソフトウェア開発の関係で、インターネットで実際に使えるようになったのが、授業の数日前となってしまった。そのため、今回は限られた時間の中での活用となったが、遠隔授業のような一斉授業とは異なり、個別にデータを入力したり、相手の情報を読むことができるため、個別に学ぶことができる主体的な学習システムとしての成果をあげた。また、インターネットの掲示板ということで家庭のパソコンでも参加することができた。遠隔授業の前に個別レベルで自己紹介ができたことは成果であった。

- ・今日の授業の前に、パソコンを使って自己紹介や趣味などを相手に発信できたので、交流がより楽しく親しみをもてたと思いました。
- ・インターネットを使って、シチ中学校の人々と自己紹介をしたり、好きな物をお互いにわかりあえて、すごくよかったです。こういうことができるインターネットはすごく便利だと思いました。

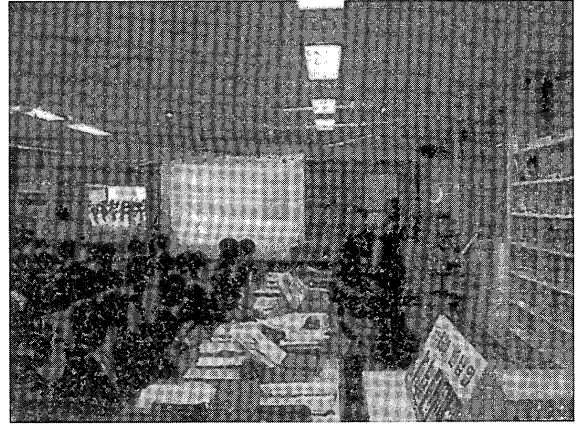
### ○今後の方向性について

遠隔授業を今後も継続していきたいという希望をもつ生徒たちが多かった。今回の授業では、限られた時間の中で授業を構成しなければならなかったため、生徒同士で自由に意見を言ったり、質問をしたりする時間がとれなかった。次回はそのような自由な時間を設定していきたい。

- ・これからも遠隔授業をもっと増やしてほしいし、もっと身近に感じられると良いと思いました。
- ・これからは国際交流の時代なので、こういうことを通して他国の人との交流を深めたいです。
- ・私はまた、韓国の人たちと交流してみたいと思いました。だけど、今度はテレビ電話じゃなくて直接会って交流してみたいと思いました。
- ・もっとフリーに交流ができればいいなと思いました。そして最終的には一対一というふうに話せるようになると最高だと思います。



附属長野中学校の授業の様子



時至中学校の授業の様子

## B 大学生を対象とした遠隔授業（講義）

### (1) 実施校

【日本】 信州大学教育学部

所在地：長野県長野市西長野 6-0

テレビ電話：001-81-26-238-8939

【韓国】 時至中学校

所在地：大邱市壽城區新梅路 51 番地

テレビ電話：001-52-53-794-0841

### (2) 概要

時至中学校の羅惠娘教諭を講師としての遠隔授業（講義）を、信州大学教育学部芸術教育専攻音楽教育分野の学生を対象にして行なう。テーマは「韓国の中学校音楽教育の現状について」で、前半はパワーポイントを使っての羅惠娘教諭からの講義、後半は学生からの質問を中心とした。

### (3) 方法

テレビ電話を活用して、遠隔授業(講義)を行なう。基本的には附属長野中学校で行ったシステムと同じである。パワーポイントについては、羅惠娘氏から日本語に翻訳したデータを事前に送ってもらい、プロジェクターで投影し、羅惠娘教諭の講義の内容に合わせてスライドを進めた。


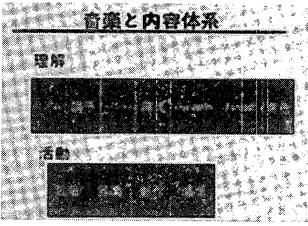


## (4) 実践記録

日時：平成14年12月16日(月) 13:40~14:30

対象：【韓国】講師 時至中学校 羅惠娘教諭 場所：音楽室

【日本】受講生 信州大学教育学部芸術教育専攻音楽教育分野学生(約40名) 場所：N405

時間	内容	韓国(羅惠娘教諭)	日本(教育学部)	備考
13:40	(1) 羅惠娘教諭による講義	(パワーポイントの資料から)  	聴講する	パワーポイントで説明
14:00	(2) 学生からの質問	羅惠娘教諭が各質問について回答する。	・コンピュータを使った創作活動に積極的に取り組んでいるか? ・部活動は行なわれているか? ・伝統音楽を扱っている割合はどのくらいか? ・・・他	
14:30				

## (5) 考察

## ○韓国の音楽教育について

隣国でありながら韓国の音楽教育については関心をもっている学生は少なかったが、今回の遠隔授業で、日本の音楽教育との接点の多さに気づき、さらに伝統音楽や創作学習、コンピュータの利用という点で日本より充実した内容になっていることを知り、韓国のカリキュラムについて興味をもつ学生が多くなった。今回のように実際の教育現場で活躍している先生による話は説得力があり、学生たちにとって印象深い内容となった。今回の遠隔授業は、現在の日本の音楽教育を再考する上でも有意義な実践となった。

## 【学生の感想から】

- ・すぐお隣の国なのに、韓国の教育のことについては全く知識がありませんでした。お話をお聞きして、案外、音楽教育に対する基本的な考え方が共通している部分が多く、最近の日本の教育の動向と同じ要素が日本より強く表れているのではないかなという印象を受けました。
- ・日本と韓国の音楽教育を比較して、自国の伝統音楽がかなり重視されている点に感心した。また、日本よりコンピュータを活用した音楽教育が行われていた。伝統楽器を扱っている部活動があることは驚いた。
- ・一番、印象的だったのは、伝統楽器をすごく重視しているという点です。日本でも和楽器を扱うようになりましたが、もっと詳しく韓国の状況を知りたいです。

### ○遠隔授業（講義）について

授業時間は約 50 分であったが、テレビ電話の音声、画像はともに安定していた。マイクの近くで音声を送信することができるため、ハウリングが生じることはなかった。

学生たちは、これまでに国内での遠隔授業を体験したことがあるが、海外の学校との遠隔授業は初めてであった。リアルタイムに韓国の先生と話ができることの喜びとその意義を実感した学生が多く、これからも継続して行いたいという希望が多かった。教育現場に立ったときに実際に活用したいという構想を語る学生もおり、本実践を通して遠隔授業の将来的な可能性を示唆することができた。

- ・リアルタイムに韓国の先生と話ができ、本当に貴重な体験ができました。
- ・遠隔授業は距離を越えて、直接時間を共有できる良い試みだと思います。将来的には実際の学校でも取り入れられていこうと思います。
- ・韓国とはすごく近い距離にあるのに、あまり接点がなかったので、今回の授業はとても興味深かったです。
- ・今度は韓国の子どもたちや同じ世代の学生と交流ができればいいなと思います。
- ・このような国際間の交流を頻繁にやってほしいと思いました。リアルタイムでのテレビ電話というものは心が通じ合うものだと思います。

## 4 研究の成果

本研究では、同じアジア地域であり隣国という関係にある韓国との音楽授業ネットワークづくりを進めてきた。両国には時差がないため、遠隔授業は通常の授業時間内で無理のない実践を行なうことができた。地理的にも近距離にあるため、研究の依頼と打ち合わせを目的とした訪韓も無理のない日程で開催することができた。また、日韓の教育課程と音楽教育の内容に類似点があるため、授業内容の検討もスムーズに行なうことができた。しかし、類似しながらも、お互いに刺激しあう場面は多くあった。中学生間の遠隔授業では、時至中学校の生徒の積極的な姿勢が印象的であった。代表生徒が、授業の最後に「わたしたちはアジアの未来です」と日本語で発言したが、その言葉を受けて附属長野中学校のある生徒は「今日の交流授業で一つ大きなことがわかりました。それは、この交流は、ただ自分たちの国の文化を伝えたりするだけではなく、これからの未来を、自分たちが、国が違っても、力を合わせていかななくてはならないということです。」と感想に記している。生徒たちは、今回の遠隔授業を通して、国際レベルでの未来に目を向け、その第一歩として隣国である韓国との連携の必要性を感じたのではないだろうか。大学生を対象とした遠隔授業（講義）では、両国とも音楽教育の中で伝統音楽を扱っていることに接点はあったが、韓国では授業の中で伝統音楽を扱う割合が 40%であることを知り、学生たちは驚きの表情であった。明治時代以来、西洋音楽を一方向的に導入するという文明受容型<sup>13)</sup>にあった日本の音楽教育を反省し、韓国の音楽教育の現状から学ぶべき点は多かった。

音楽は非言語コミュニケーションともいわれるが、中学生間の遠隔授業では、音楽発表をしたり共同で歌ったりする活動を重ねるたびに、双方の教室の雰囲気は明るくなり、授業の後半には、生徒たちの笑顔で一杯の教室になっていた。最後のお別れの場面では、手を大きく振り合う生徒たちの姿が印象的であった。附属長野中学校のある生徒は「ハンガルの歌を歌ってみて思ったことは、歌は世界のいろんな国をつなげることができるなあということです。やっぱりハンガルの会話をしろと言われても無理があるけれど、歌だったらやろうと思えば、その気持ちは伝わるのだと思います。」と感想に記している。音楽は言語を越えて、人と人との心の距離を近づけることができる力をもっていることを実証することができた。本研究を通して、音楽という教科による授業ネットワークづくりの有効性を明らかにすることができた。

## おわりに

本研究を通して、韓国の音楽教育の一面に触れることができた。日本国内では学習指導要領に基づく音楽教育が展開されているが、国外に目を向けたとき、日本とは異なる音楽教育の魅力を発見することができる。本研究からも明らかとなったように、音楽は人と人との心をつなぐことができる教科である。これからの時代は、国際レベルで音楽教育のあり方を再考していくことも必要ではないだろうか。東京大学名誉教授の大田堯は、21世紀の教育の目的を「地球市民の形成」とし、生命と生命のきずなを再構築することの必要性を述べているが<sup>14)</sup>、地球市民というレベルで、人類にとってどのような音楽教育が望ましいかを展望しなければならない時期にきているのではないだろうか。その第一歩として日韓を拠点としたアジア地域から、音楽授業ネットワークづくりに関する新たな情報を発信していくことを目指したい。

最後に、本研究を推進するにあたって多大なる支援をいただいた(有)ミュージカル・プラン社長の江守幸一氏、(株)ユーリー・ソフトウェア社長の You Ri Hong 氏、アコール音楽教育研究所主宰の小林田鶴子氏、そして授業を提供していただいた時至中学校音楽科の羅惠娘氏、附属長野中学校音楽科の畑中浩美氏、臼井学氏に謝意を表したい。

## 注

- 1) (有)ミュージカル・プラン、(株)ユーリー・ソフトウェアが主催した。
- 2) 河口道朗『音楽教育入門』、音楽之友社、1995、p.164
- 3) 張師勛『韓国の伝統音楽』、成甲書房、1984、p.246
- 4) 平成13年1月に、高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する施策を迅速かつ重点的に推進するために、内閣に「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT 戦略本部)」が設置された。
- 5) 平成14年6月18日に「e-Japan 重点計画-2002」が示された。
- 6) 「ミュージック・プロ」の韓国版(ユーリー・ソフトから発売)を活用した創作学習を中心に行なっている。
- 7) 「韓国教育学術情報院」が運営するホームページ(マルチメディア資料室)を利用することができる。
- 8) 現在開発中で製品化されていない。今回は試験的に活用した。
- 9) Integrated Services Digital Network の略。総合デジタル通信網で国際電信電話諮問委員会で標準化されている通信網の国際規格である。
- 10) 韓国の伝統的な農楽から起きたもので、チャンゴ(杖鼓)、プク(鼓)、ケンガリ(鉦)、チン(ドラ)の伝統的な四つの楽器で演奏される。
- 11) ケンガリの音は雷を表し、音楽をリードする楽器。金属製で厚みは薄い。木製のバチで叩くと甲高い音がする。
- 12) 両側に皮が張ってあるが、左側の鼓面は牛革で低めの音が、右側の鼓面は馬の皮で高い音になる。
- 13) 高萩保治『音楽教育の国際化』、音楽之友社、1995、p.17
- 14) 中野光他『教育課程改革への理論と実践』、東洋館出版社、1998、p.53

(2002年12月16日 受理)